

わたしの好きな よ

No.143



<ホンダ寄居新工場建設地>

皆さんに今回ご紹介するのは、昨年の12月下旬に撮影した航空写真です。場所がおわかりになりますか？

ここは、本田技研工業株式会社寄居新工場の建設地です。皆さんは、国道254号を通行するとき、この建設地の造成現場を目にすることが多いのではないのでしょうか。しかし、国道から見えるのは広大な造成現場のほんの一部です。工事が始まった直後から、「一体全体、奥の土地はどのように造成されているの？今は何の工事をしているの？」といったご質問を皆さんからいただきました。『百聞は一見に如かず』です。この写真をご覧いただければ疑問も

解決するのではないのでしょうか。

ここで、この建設地がどれくらい広大な土地なのかということをご皆さんにご紹介します。工場が建つ国道の東側と駐車場になる西側を合わせた面積は97.84haで、寄居町の面積の約1.5%にあたります。これでは広さがぴんとこないですね。他の施設などに例えますと、東京ディズ

ニーランド（テーマパークエリア）約1.9個分、東京ドーム約21個分、熊谷ドーム約32個分の面積となります。

計画では、いよいよ今年の秋から造成工事と並行して建築工事が始まる予定です。平成22年の工場稼働時にどんな建物が姿を見せるのか、今から楽しみですね。

わが町の 達人

カワセミ研究の達人 No.12



木島 宏さん (六供)

私の子供の頃の遊び場は、家から3~4分で行ける荒川だった。そこで、きれいな鳥「カワセミ」をよく見かけていた。

退職して、その美しさにひかれた荒川で写真を撮るようになり、すでに11年が過ぎた。カワセミの魅力は、「飛ぶ宝石」とか「水辺の宝石」といわれる美しさと素早さ、そして鋭さにあると思っている。撮影を通し

このコーナーは、「寄居生活学の達人」として町に登録をいただいている町民講師の方々を中心に、そのうちくちや技術、体験などを町民の皆さんに紹介するコーナーです。

て知り得たことを皆さんにお伝えしたいと思う。

カワセミは、河川や沼・池に生息している。水中の杭や岩、水辺に張り出した枝などに止まり、獲物の小魚を狙う姿を見ることができる。縄張りを持ち、激しく争いもする。雄と雌の違いは、くちばしの上下が黒いのが雄で、下くちばしが赤いのが雌である。春になると、雄が雌に魚をあげる行動（求愛給餌）が見られ、求愛が成り立つと交尾をする。卵は、土の崖に掘られた巣穴に5~6個産み、3~4週間で雛が誕生し、さらに3~4週間して巣立っていく。

この間、親鳥は必死に雛の成長にあった大きさの魚を運ぶ。水中で魚を捕える時は、目を膜（瞬膜）でおおい、保護している。魚を自分で食べる時には頭から飲み込むが、求愛で雌に与える時や雛に与える時には、相手が食べやすいように魚を一度くわえなおし、頭を前にして与える。

巣立ちの前日には、餌を与えないで雛を空腹に

させ、当日は魚で雛を巣穴の外に誘い出すのである。

カワセミの子育ては順調に行くことばかりではない。ある時、巣立ち間際に蛇に入られてしまった。しかし、蛇を追出し、4羽の雛を助けることができた。中には、蛇に入られた場合の逃げ道のある巣穴を掘っているカワセミもいた。このことは今までに見たことも、また聞いたこともなかったので、驚くべき発見だった。子育てを終えたカワセミは、別々に分かれて生きていく。

皆さんも寄居町の美しい自然の中でカワセミと出会い、ぜひ感動を味わっていただきたいと思う。

